

平成20年度
福岡市 公共事業再評価 資料

番号①：中央ふ頭地区道路②整備事業

番号②：金屑川都市基盤河川改修事業

番号③：那珂川都市基盤河川改修事業

番号④：西南杜の湖畔公園整備事業

番号⑤：福岡市公共下水道事業

再 評 価 資 料

①中央ふ頭地区道路②整備事業

国土交通省所管

港湾改修（特重）事業

福岡市 港湾局

平成20年度 事業再々評価総括表

整理番号		事業名	中央ふ頭地区道路②整備事業				
事業主体	福岡市	事業種別	港湾改修(特重)事業				
担当課	港湾局計画部計画課(事業調整担当)						
事業概要	施工箇所	中央ふ頭地区(博多区沖浜町) 道路②(臨港道路中央ふ頭1号線)			事業規模(当初)	延長888m	
					"(再評価点)	"	
					"(現時点)	"	
事業採択年度	平成6年度	用地買収着手年度	-		工事着手年度	平成6年度	
当初	完成予定年月	平成13年3月	総事業費	13億円	残事業費	-億円	
再評価時	"	平成20年3月	"	13億円	"	10億円	
現時点	"	平成23年3月	"	10億円	"	6億円	
費用対便益(当初)	便益(B)	-億円	費用(C)	-億円	B/C	-	
"(再評価時)	"	448億円	"	187億円	"	2.4	
"(現時点)	"	149億円	"	80億円	"	1.9	
1. 事業の目的							
<p>中央ふ頭地区では、九州・アジアの海の玄関口として、物流機能の再編・高度化に加え、ターミナル機能やコンベンション施設を中心とした交流ゾーンを整備する再開発事業を進めている。</p> <p>本事業は、当地区の基幹道路、かつ海の玄関口に相応しいシンボルロードとして整備を図るものである。</p>							
2. 事業の進捗状況							
<p>進捗率 47% (事業費ベース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本整備済 178m (全体の約20%) ・暫定整備 470m (全体の約53%) ……車道部分を整備(歩道は暫定整備または未整備) ・残 240m (全体の約27%) 							
3. 事業を巡る社会情勢等							
<p>中央ふ頭地区では、再開発事業によりこれまでに高度化倉庫、国際ターミナル施設、マリンメッセ等の整備が行われ、本市の海の玄関口としての国際交流拠点づくりを進めている。</p> <p>博多港における外国航路船舶乗降人員数は、平成19年度約84万人を超え、15年連続日本一の状況にあり、平成20年には、上海発着の「ラブソディ・オブ・ザ・シーズ」をはじめ、4月から11月にかけて延べ30隻以上の大型クルーズ船の寄港が予定されるなど、近年、東アジアにおける交流拡大に伴い外航旅客者が急増している。</p> <p>また、平成23年春の九州新幹線の全線開通など、観光促進、日韓交流を支える広域交通基盤の充実が図られることにより、今後とも東アジアとの交流拡大が見込まれている。</p> <p>一方、中央ふ頭における外貨コンテナ貨物の取扱量は、韓国航路の堅調な伸びに支えられ、博多港全体の約1割に相当する年間7万TEUにまで伸びており、今後も更なる増加が予想されている。</p> <p>しかし、これらの需要増に対して、暫定整備で対応している国際ターミナル前の交通広場及び野積場の容量不足が顕著となっており、近年、交通広場内外での交通混雑や利用者の利便性・安全性の低下を招いている。</p> <p>このため、当該道路を含む国際ターミナル周辺機能の充実・強化が急務となっている。</p>							
4. 今後の方針							
事業継続							
<p>国際ターミナル前の交通広場及び野積場の機能強化(拡張)が急務となっていることから、その前提となる当該道路の整備を早急に進める。また、再開発事業着手以来、鋭意進めてきた支障物件のクリアランスについても、平成19年度までに完了したことから、平成23年春(九州新幹線全線開通)の全区間完成を目指し、継続して実施する。</p>							
5. 委員会意見							
事業継続							

再 評 価 資 料

②金屑川都市基盤河川改修事業

国土交通省所管

河川事業

福岡市 道路下水道局

平成20年度 事業再々評価総括表

整理番号		事業名	金屑川都市基盤河川改修事業			
事業主体	福岡市	事業種別	河川事業			
担当課	道路下水道局 河川部 河川管理課					
事業概要	施工箇所	福岡市早良区、城南区			事業規模(当初)	
					" (再評価点) L=12, 185m	
					" (再々評価点) L=12, 185m	
					" (現時点) L=12, 185m	
事業採択年度		用地買収着手年度		工事着手年度	昭和46年度	
当初	完成予定年月	平成 年 月	総事業費	億円	残事業費	— 億円
再評価時	"	平成25年 3月	"	186億円	"	72億円
再々評価	"	平成25年 3月	"	217億円	"	38億円
現時点	"	平成25年 3月	"	217億円	"	25億円
	費用対便益(当初)	便益(B)	億円	費用(C)	億円	B/C
	" (再評価時)	"	—億円	"	—億円	"
	" (再々評価時)	"	6,829億円	"	371億円	" 18.4
	" (現時点)	"	9,313億円	"	429.5億円	" 21.7

1. 事業の目的

本流域は、宅地化による耕地埋立や、山地の開発により流出率が増大したため、洪水時には浸水被害のおそれが高まっている。特に、中流部は河川の流下能力が低いため氾濫し、下流部市街地に甚大な被害を被っている。このため、治水安全度の向上を図るとともに、河川の一部を水辺の楽校に登録(L=620m)し、NPO、ボランティア団体等と協力しながら自然あふれる安全な水辺を創出する河川改修を行う。

2. 事業の進捗状況

○昭和46年度 事業着手 室見川合流点から小田部橋3,270m・・・当該区間は完成
 ○昭和50年度 区間延伸 支川油山川3,770m
 ○平成元年度 区間延伸 金屑川小田部橋から上流5,145m

- 平成10年再評価時点 事業進捗率(事業費ベース) 61% (用地補償62%)
- 平成15年再々評価時点 事業進捗率(事業費ベース) 82% (用地補償89%)
- 平成20年再々評価時点 事業進捗率(事業費ベース) 88% (用地補償95%)

3. 事業を巡る社会情勢等

金屑川及び支川油山川の流域内は、平成7年度に外環状道路が一部供用開始し、平成17年度に地下鉄七隈線が開業、また、平成20年8月に国道263号の三瀬トンネル有料道路が供用開始され、平成22年度には都市高速道路の供用開始など、インフラ整備にあわせて宅地開発などの都市化が急速に進んでおり、また、平成11年6月29日の集中豪雨の際には、金屑川では田隈地区や賀茂地区、油山川では野芥地区において河川の氾濫による浸水被害も発生している。そのため治水対策は急務であり、その根幹となる河川の改修が必要である。

4. 今後の方針

事業継続
 浸水被害を防ぐため、今後とも事業を継続して実施し、地域の治水安全度の向上を図る。

5. 委員会意見

事業継続

再 評 価 資 料

③那珂川都市基盤河川改修事業

国土交通省所管

河川事業

福岡市 道路下水道局

平成20年度 事業再々評価総括表

整理番号		事業名	那珂川都市基盤河川改修事業				
事業主体	福岡市	事業種別	河川事業				
担当課	道路下水道局 河川部 河川管理課						
事業概要	施工箇所	福岡市博多区、南区			事業規模(当初)	L=1, 500m	
					"(再評価点)	L=2, 200m	
					"(現時点)	L=2, 200m	
事業採択年度		平成3年度	用地買収着手年度	平成3年度	工事着手年度	平成5年度	
概要	当初	完成予定年月	平成16年 3月	総事業費	65億円	残事業費	— 億円
	再評価時	"	平成19年 3月	"	164億円	"	21億円
	現時点	"	平成22年 3月	"	147億円	"	1億円
	費用対便益(当初)		便益(B)	—億円	費用(C)	—億円	B/C
"(再評価時)		"	—億円	"	—億円	"	
"(現時点)		"	5916億円*	"	596億円*	"	9. 92*

1. 事業の目的 ※広域基幹河川改修事業も含む

福岡市では、まちづくりと一体的に治水施設の整備と水辺空間の整備を実施していくことで、浸水による水害の軽減と地域の生活環境の向上を図っている。

那珂川流域では、昭和28、38、48、55年等の洪水により浸水被害を受けている、近年でも平成11年6月に家屋浸水等の被害が発生するなど、度重なる浸水に被られている現状である。

このため、県施工の那珂川広域基幹河川改修事業及び市施工の那珂川都市基盤河川改修事業 (L=2, 200m) にて治水安全度の向上に努めている。

また、市施工区間については、昭和62年度新規施策の「ふるさとの川モデル事業」の指定 (百年橋～井尻橋 : L=3, 400m) を受け、平成5年度からは那珂川リバーサイド地区住宅市街地整備総合支援事業に併せた、まちづくりと一体となった河川整備を進めている。

2. 事業の進捗状況

平成 元年度 整備計画の認定

平成 3年度 事業採択 (都市小河川) ・事業進捗率 ※事業費ベース 全体 99.7%(H19年度決算)

平成 5年度 工事着手 事業進捗率 99.7%

平成 19・20年度 休止※ 工事進捗率 99.3%

平成 21年度 工事完了予定 用地・補償進捗率 99.9%

※理由：平成11・15年の豪雨で甚大な被害が発生した河川改修を優先させるため休止を行った。

(参考)

昭和 62年度 那珂川ふるさとの川整備 (旧モデル) 事業指定 (福岡県)

3. 事業を巡る社会情勢等

当事業を含めた那珂川リバーサイド地区住宅市街地整備総合支援事業は平成19年度にてほぼ完成しており、水辺環境を活かした、利便性の高い都市型住宅の形成がすすめられている。

このため、都市景観の形成を図りつつ、職住近接型の良好な市街地住宅の供給に奇与するため、引き続き環境整備を併せた河川整備を求められている。

4. 今後の方針

残事業については、未整備区間において治水安全上も含め、高水敷き (園路) の回遊性が遮断されている状態であり、早期の完成を求められている。このため周辺施設との良好な住環境を形成する重要な基盤整備として、平成21年度完成を目指し実施を行う。

5. 委員会意見

事業継続

再 評 価 資 料

④西南杜の湖畔公園整備事業

国土交通省所管

都市公園事業

福岡市 住宅都市局

平成20年度 事業再評価総括表

整理番号		事業名	西南杜の湖畔公園整備事業				
事業主体	福岡市	事業種別	都市公園事業				
担当課	住宅都市局公園緑地部公園計画課						
事業概要	施工箇所	福岡市城南区七隈6丁目、梅林3丁目、千隈2丁目		事業規模(当初)	19.2ha		
				"(現時点)	19.2ha		
	事業採択年度	平成11年度	用地買収着手年度	平成11年度	工事着手年度	平成13年度	
	当初	完成予定年度	平成26年3月	総事業費	180億円	残事業費	— 億円
	現時点	"	平成26年3月	"	173億円	"	88.8億円
	費用対便益(当初)	便益(B)	億円	費用(C)	億円	B/C	
"(現時点)	"	690.6億円	"	235.3億円	"	2.93	
1. 事業の目的							
<p>当該地は、市街化が進行する本市南西部に残された、貴重なオープンスペースであり、緑豊かで静寂な雰囲気が残されている。本事業は、水辺や樹林地等の、現存する豊かな自然環境を保全しながら、本市の南西部地域における、広域圏からの利用を想定した、「湖畔の緑地や生き物と共生する・スポーツ・コミュニティ公園」を基本テーマとする総合公園を整備することを目的としている。また、当該公園は福岡市域防災計画において、広域避難地として位置付けられており、本市南西部の防災拠点整備のために、防災緑地緊急整備事業として採択されている。</p>							
2. 事業の進捗状況							
<p>平成11年度～ 用地買収着手、防災緑地緊急整備事業採択 平成13年度～ 用地先行取得完了、施設整備着手 平成15年度～ 部分供用開始 平成17年度～ 供用区域拡張 平成20年度～ 供用区域拡張 平成21年度～25年度 用地費償還・施設整備 (①ふれあい広場 ②園路 ③駐車場)</p>							
<p>事業進捗率 全体 約52% (事業費ベース) 工事 約74% (事業費ベース) 用地 約51% (事業費ベース) ・用地先行取得を含む面積ベースでは99% ・未償還面積 約5.3ha</p>							
3. 事業を巡る社会情勢等							
<p>当該地は、市街化が進行する本市南西部に残された、貴重なオープンスペースである。現存する水辺や樹林地等の自然環境保全や、これらの自然環境を活用した、多目的な自然体験ができる場の創出、様々なスポーツ・レクリエーション活動の場の創出等、多様化する市民ニーズに応える都市公園として、本公園の役割はますます重要となっている。</p>							
4. 今後の方針							
<p>・事業継続 当該公園は、本市南西部における防災拠点であり、避難地としてのアクセス向上のために、ふれあい広場や園路等を整備し、水辺や樹林地等の豊かな自然環境を活かした、多目的な自然体験ができる場を拡張整備するとともに、総合公園として、広域圏からの利用ニーズに応えるために、駐車場等の整備を行う。また、先行取得した用地の償還を進めていく。</p>							
5. 委員会意見							
事業継続							

再 評 価 資 料

⑤福岡市公共下水道事業

国土交通省所管

公共下水道事業

福岡市 道路下水道局

平成20年度 事業再々評価総括表

整理番号		事業名	福岡市公共下水道事業（污水）			
事業主体	福岡市	事業種別	公共下水道事業（国土交通省所管）			
担当課	道路下水道局下水道整備部事業調整課					
事業概要	施工箇所			事業規模（当初）		
				"（再評価点）		
				"（現時点）		
事業採択年度		用地買収着手年度		工事着手年度		
当初	完成予定年月	平成28年 3月	総事業費	929億円	残事業費	— 億円
再評価時	"	平成 年 月	"	億円	"	億円
現時点	"	平成38年 3月	"	700億円	"	578億円
費用対便益（当初）		便益（B）	億円	費用（C）	億円	B/C
"（再評価時）		"	億円	"	億円	"
"（現時点）		"	190億円/年	"	36億円/年	5.3
1. 事業の目的						
<p>衛生的で快適な生活環境の確保、博多湾や河川等の公共用水域の水質保全、清らかな水環境の再生を目的とする。</p>						
2. 事業の進捗状況 ※事業費ベース（平成20年度末予定）全体 約17%						
【高度処理】						
平成10年		博多湾特定水域高度処理基本計画策定				
平成11年		新西部TC事業認可				
平成19年		窒素リン同時除去法供用開始（東部TC1系列）				
平成20年（予定）		新西部TC本格着工				
平成20年（予定）		和白TC、西部TCにて窒素リン同時除去法着工				
【合流改善】						
平成16年度より、博多駅周辺地区（約300ha）の分流化に着手						
平成20年度末（予定）整備面積約134ha、整備率約45%						
3. 事業を巡る社会情勢等						
【高度処理】						
博多湾は、湾口が狭く外海水との交換が悪いため、窒素・リン等の栄養塩類が蓄積しやすい閉鎖性水域であり、近年、都市化の進展に伴い湾内へ流入する汚濁負荷量が増大し、富栄養化による赤潮が発生するなど水環境に様々な悪影響を及ぼしている。本市の貴重な財産である博多湾の富栄養化を防止し、水質を保全するためには、高度処理の導入が不可欠となっている。						
【合流改善】						
合流式下水道については、近年、雨天時における未処理下水の流出や悪臭など、環境や衛生上の問題が生じていることから、平成15年の下水道法施行令の改正により、雨天時放流水質基準が設けられる等、合流式下水道の改善が法的に義務付けられ、確実な対策が求められている。						
4. 今後の方針						
「事業継続」						
公共用水域の水質保全、清らかな水環境の再生等に不可欠な事業であり、継続して整備を進めていく必要がある。						
5. 委員会意見						
事業継続						

平成20年度 事業再々評価総括表

整理番号		事業名	福岡市公共下水道事業（雨水）			
事業主体	福岡市	事業種別	公共下水道事業（国土交通省所管）			
担当課	道路下水道局下水道整備部事業調整課					
事業概要	施工箇所			事業規模（当初）		
				"（再評価点）		
				"（現時点）		
事業採択年度		用地買収着手年度		工事着手年度		
当初	完成予定年月	平成23年 3月	総事業費	934億円	残事業費	— 億円
再評価時	"	平成 年 月	"	億円	"	億円
現時点	"	平成29年 3月	"	945億円	"	310億円
費用対便益（当初）		便益（B）	億円	費用（C）	億円	B/C
"（再評価時）		"	億円	"	億円	"
"（現時点）		"	3,522億円	"	960億円	3.7
1. 事業の目的						
<p>本市では、平成11年の集中豪雨により、市内全域において甚大な浸水被害を受けたことから「雨水整備D0プラン」を策定し、地域を重点化して早急な浸水被害の軽減を目指している。特に博多駅周辺地区については、平成15年に2度目の浸水被害を受けたことから、「レインボープラン博多」を策定し、整備水準を上げるとともに、従来の流下型の整備に加え、流出抑制型の整備も進めている。</p> <p>浸水対策事業を推進することにより、浸水被害を軽減し、市民の生命・財産を守るとともに、都市機能の確保を図る。</p>						
2. 事業の進捗状況 ※事業費ベース（平成20年度末予定）全体 約67%						
重点整備地区59地区のうち、平成20年度末において30地区が完了予定。						
3. 事業を巡る社会情勢等						
<p>近年では、全国各地でゲリラ的な集中豪雨による浸水被害が頻発しており、また、都市化の進展に伴う浸透面の減少により、雨水流出量も増加している。さらに、地下鉄や地下街など地下空間の利用も増え、浸水被害を受けやすい都市構造となっており、浸水対策の重要度はますます高まってきている。</p>						
4. 今後の方針（案）						
「事業継続」						
浸水被害を軽減し、市民の安全を確保するため、引き続き事業を継続する。						
5. 委員会意見						
事業継続						